

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	楽曲創作Ⅱ		授業形態/必・選	実習	必修
	楽曲創作Ⅱ			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験29年 1996年にEMIよりバンドデビュー。 1999年より作家として活動し、シンガーソングライターとして活動する傍ら、作詞・作曲家としてSMAP、Crystal Kay等に楽曲提供。 2015年日本文芸社より作曲書籍を上梓。バンド・シンガーのプロデュース、編曲を手掛ける。					
授業概要						
個々の楽曲創作への指導 オリジナル曲制作のブラッシュアップ、音源制作の為のアレンジ作業内容への提案 学内イベントでの発表曲の確認						
到達目標						
・着実なステップにより各自オリジナル曲の質を向上させる。 ・作曲工程の効率化を図り、楽曲制作時間のスピードアップと各楽曲の質を安定させる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	現時点までの各自作曲方法の見直し ・各自の楽曲完成までの作曲順序の確認 ・楽曲創作についての疑問や迷いの解消 ・作曲未経験学生の具体的課題への取り組み(ステップ1、作詞とコード進行作成)					
【前期】 6～10回目	オリジナル曲制作① ・タイトル、歌詞作成におけるポイントをおさえる ・各自考案した曲原形の持つリズムの型を把握する ・作曲未経験学生の具体的課題への取り組み(ステップ2、曲展開の考案及び作成)					
【前期】 11～15回目	オリジナル曲制作② ・曲構成を理解し、ブロック毎の流れ・バランスを確認し全体を仕上げていく ・サビメロディーのキャッチーさ、フレーズの印象度を各自客観的に判断する ・作曲未経験学生の具体的課題への取り組み(ステップ3、メロディーと歌詞の結合法を覚える)					
【前期】 16～19回目	オリジナル曲制作③ ・歌詞、メロディーのリライトについて理解する ・各楽曲のパフォーマンスプランの詳細を立てる ・作曲未経験学生の具体的課題への取り組み(ステップ4、自作曲フルサイズでの流れの確認及び調整)					
【前期】 20回目	「前期試験」					
【後期】 21～25回目	オリジナル曲制作④ ・各自未経験のリズム、テンポ、ジャンルで興味のある物を見つけ作曲に取り組む ・楽曲の雰囲気や左右するコードの使い方理解していく ・自作曲フルサイズでの展開、構成を小節数、秒数単位で調整出来る判断を身に付ける					
【後期】 26～30回目	オリジナル曲制作⑤ ・複数曲を同時並行で作曲し、自作曲毎の明確な差別化を身に付ける ・歌詞内容、テーマのシンプル化を実践する ・メロディー、歌詞の反復効果をうまく使用出来るよう理解する					
【後期】 31～35回目	オリジナル曲制作⑥ ・曲中の歌のない部分の効果的な使い方身に付ける ・1コーラス1ブロックの曲を作り、歌詞と共に短い完結作りを覚える ・曲作りでの自身の細かなこだわりの削ぎ落としを実践し、客観的な視点を持てるようにする					
【後期】 36回目	「後期試験」					
【後期】 37～40回目	共作曲の実践 ・共作方法の種類を把握し、スピーディに楽曲を形にする ・別作者の作曲したブロックをキー調整し連結出来るようになる ・他者のアイデアを取り入れながら、共作曲で統一感のある全体の流れを調整する					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	楽曲創作の授業時間は限られているので、各学生は授業時間外にも創作し、授業内でその曲の内容について指導を受けて楽曲を完成形へと近づけていくつもりで受講してください。					
使用教科書	必要に応じてコード進行表等の資料配布					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ヴォーカルⅡ(前期/後期)		授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォイストレーニングⅡ			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	ESPエンタテインメント東京ヴォーカルコース卒業。在学中に結成した自身のユニットで楽曲リリースやライブ活動後、卒業から1年でESPにてヴォーカルコース講師に就任。現在はヴォーカリストとして活動しつつ、ヴォーカルトレーナーとして声優育成ボイストレーニングを始め、アーティストや俳優等のヴォイストレーニングを担当。また、自身の音楽スタジオも設立し、ヴォーカル講師として多数レッスンをしつつ経営にも携わっている。					
授業概要						
1年ヴォイストレーニングの復習と応用。楽器である身体を鍛える為の筋力トレーニング、体幹トレーニングを行い、更に歌唱時に必要な身体の使い方を学ぶ。シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。						
到達目標						
各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、身体全体を鍛えると共に発声に必要な身体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「Lifestyle、ストレッチ、姿勢、呼吸」一年次の復習と修正。ヴォーカリストに必要な生活習慣のレクチャー、歌う前に身体の緊張を解す準備運動、基本姿勢、発声に必要な横隔膜及び胸郭の使い方を学ぶ。					
【前期】 5～8回目	「腹式」一年次の復習と修正。発声時に腹圧をどのように設定し、それをどの状況でコントロールするのかを、スケール(音階)を使用したメソッドで繰り返しトレーニングする。					
【前期】 9～12回目	「滑舌」一年次の復習と修正。言葉を発する時の唇、舌、顔の筋肉の基本的な使い方を学ぶと同時に、それぞれの部位を正確に動かせるように繰り返しメソッドを行うことで鍛えていく。また、強弱や明暗などのコントロールを応用として行えるようにする。					
【前期】 13～16回目	「共鳴」一年次の復習と修正。音量ではなく“響き”を作る為に必要な副鼻腔、口腔、咽頭の基本的な使い方を学ぶ。更に、様々なトーン(柔らかい、堅いなど)を使い分けられるようにそのコントロール方法も身に付ける。					
【前期】 17～19回目	「高音域①」一年次の復習と修正。高音域を発声するのに必要な声帯及びその周囲の筋肉の基本的な使い方を学び、対してNGパターンも併せて学ぶ。また、ただ発声出来ているだけではなく、必要な共鳴を備え、その都合(太い、柔らかいなど)をコントロール出来るように様々なメソッドを繰り返し行う。					
【前期】 20回目	前期試験					
【後期】 21～24回目	「高音域②」上の「高音域①」を継続					
【後期】 25～28回目	「支え」一年次の復習と修正。声を真っ直ぐに伸ばす時や音程が上がる時に、その声の共鳴を安定したものに身体を使い方を、様々なスケールトレーニングを繰り返し行うことにより学ぶ。					
【後期】 29～32回目	「トーンコントロール」一年次の復習と修正。歌詞の内容や曲調に対して必要な声のトーンにはどのようなものがあるかを知り、それらを実際に使える技術を身に付ける。更にどのトーンをどういう場合に使うかのセンスも学ぶ。					
【後期】 33～35回目	「総合①」今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高める。					
【後期】 36回目	後期試験					
【後期】 37～38回目	「総合②」今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高めることを継続する。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	一年時に身に付けた基本的な身体の使い方を常にキープすること。更には得意なものを伸ばし、苦手なものを克服する為の努力を継続させることが大切です。					
使用教科書	全コース共通の教科書を使用					

専門学校BSPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルⅡ(前期/後期)	授業形態/必・選	実習	必修	
	アンサンブルⅡ		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	76回(152単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験27年 1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレースのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。					
授業概要						
<p>既成曲または学生の制作したオリジナル曲を題材に、互いにコミュニケーションをとりながら周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル=ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。</p>						
到達目標						
<p>合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。</p>						

授業計画・内容	
【前期】 1～38回目	<p>アンサンブルとは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。 <p>課題曲①～④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)またはオリジナル曲を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い 譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。 <p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。 <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。
【前期】 39～40回目	<p>半期のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。
【後期】 41～74回目	<p>アンサンブルとは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。 <p>課題曲⑤～⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既成楽曲(課題曲⑤ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲⑥アップテンポ8ビート⇒課題曲⑦ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲⑧8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)またはオリジナル曲を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い 譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルプロデュース。 <p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。 <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。
【後期】 75～76回目	<p>半期のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「後期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	<p>楽器やシールド・チューナー、エフェクターは自身の物を持ち込みましょう! ※外部では持ち込みが常識です。1クール間(課題曲が切り替わるまで)はレンタル可。</p> <p>一人が休むと授業の進捗に支障が出ると同時に、最も大切な信用を失ってしまいます。リハや本番に穴を開けると同じと考え、どうしても休む際は学生間で事情を伝達するなどバンドメンバーの一員としての自覚と責任を持ちましょう。</p> <p>今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。</p> <p>生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう!</p>
使用教科書	担当教員または学生の制作した譜面

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アドバンス実技AG&KEY		授業形態/必・選	実習	必修
	AG&KEYⅡ			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
	アコースティックギター			キーボード		
担当講師 実務経歴	実務経験30年 1997年キューンSONYよりメジャーデビュー。 後に某TV番組にレギュラーギタリストとして1年間出演。 2000年以降はDAWアレンジ、トラックメイク、バンド、 サポートギタリスト等で活動している。			実務経験14年 国内外のアーティストやバンドのサポートキーボーディストとして、各地でのワー クショップやライブ、アレンジ、レコーディング等に携わる。 レッスンや指導も行う傍ら、自身のユニットでも活動中。		
授業概要						
	アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 初心者から中級者に向けたアコースティックギターの扱い方。 色々なジャンルの弾き方。 DAWでの作曲におけるギターの扱い方。			アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 1年生で習得した基礎を元に、様々なジャンルやスタイルに触れる。 コードワークを更に広げる。		
到達目標						
	テンションコードを含めたコードワークに対応出来るようにする。 コードフォームを工夫したアルペジオ、カッティング。 3フィンガー、4フィンガー使い分け、ソロギター的なアプローチ。			弾き語りや自身の楽曲制作にキーボード楽器を積極的に取り入れ、作風や表現 を広げていく。 コードアレンジができる。		
授業計画・内容						
	アコースティックギター			キーボード		
【前期】 1～6回目	レベルチェック及びそれぞれの音楽スタイルをチェック ・ベーシックなコードワークを確認 ・クリックに合わせたストローク、強弱も含めて演奏する			コードベーシックの確認 ・仕組み、転回フォーム、ダイアトニック、など ・それぞれの現状把握		
【前期】 7～11回目	ジャンルに合わせた演奏スタイル① ・ポップス(セブンスコード等の確認、シンコペーション含むリズム) ・フォーク(アルペジオ、伝統的な3フィンガーのパターン)			テンションコードのボイスニング ・9th、13thなど フォームや使い方		
【前期】 12～16回目	ジャンルに合わせた演奏スタイル② ・ロック(ブリッジミュート奏法、パワーコードとブラッシング) ・ブルース(パワーコードの連結、ターンアラウンドの代表的なフレーズ)			コードアレンジ、転調 ・シンプルなメロディーにコード付けをしてみる ・キーチェンジのバリエーション		
【前期】 17～21回目	ジャンルに合わせた演奏スタイル③ ・ソウル(カッティング、コーネルデュプリスタイルのフレーズ) ・R&B(ハネるグルーヴ、スモールコード、デビッドTスタイルのフレーズ)			両手で作るリズム ・両手の役割、バランス、組み合わせのトレーニング		
【前期】 22回目	「前期試験」			「前期試験」		
【後期】 23～28回目	3フィンガーピッキングのバリエーション ・ハンマリング、プリング、スライドのテクニックの確認 ・開放弦の効果的な使い方			スタイル別のバックギタリズムパターン① ・ロック(アップ、バラード) ・ブルース(シャッフル) ・ファンク		
【後期】 29～33回目	ジャンルに合わせた演奏スタイル④ ・ボサノバ(ベースノートと和音の組み合わせ方) ・ジャズ(複雑なコードのボイスニング、6th 9th 11th 13th)			スタイル別のバックギタリズムパターン② ・ソウル(ミディアム、バラード) ・ボサノバ(ラテン) ・ニューオーリンズ(セカンドライン)		
【後期】 34～37回目	アンサンブルの中でのギター演奏 ・ギター2本でのアンサンブル 実際に2本でやってみる ・DAW上でパートを重ねるコツ ・他楽器との調和を考えた演奏及びフレーズ作成			アンサンブルの中でのキーボード演奏 ・インプロビゼーション ・循環パターンのソロにチャレンジ		
【後期】 38回目	「後期試験」			「後期試験」		
【後期】 39回目	簡単なソロギターのアプローチ ・メロディを浮かしたせる強弱バランス ・クラシックギターの奏法を取り入れる ・アボヤンド、アルアイレの弾き分け			オリジナル曲または課題曲演奏、年間のまとめ		
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	アコースティックギター(なるべく)持参 ピックは必ず持参 未経験の人も楽しんで、ギターを通して様々なジャンルにも触れてみましょう!			沢山チャレンジし、吸収しながら更に自身の表現の幅を広げていってください!		
使用教科書	無し			必要に応じて課題曲の譜面配布		

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択DAWII (前期/後期)		授業形態/必・選	講義	必修
	DAWII			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース・ギターヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。 また、アイドルや声優の楽曲や CMのサウンドロゴの作編曲、MIX MASTERINGまで自身で行い、ライブではマニピュレータとしての活動も行っている。					
授業概要						
DAW(mac&Logic)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。						
到達目標						
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるようになる)知識、実践方法を学ぶ。他コースと関わり、合同での「作曲」や「レコーディング」の実現。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	PCの操作法の指導、Logic Pro Xの操作法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ					
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解					
【前期】 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成					
【前期】 21回目～22回目 (前期試験)	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習					
【後期】 23回目～35回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ 各楽器にフォーカスを合わせたオリジナル曲の合同作成 ・1コーラス(フルコーラス)を目標にオリジナル曲の合同作成					
【後期】 36回目～37回目	ツーミックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)					
【後期】 38回目 (後期試験)	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	今や楽器を持つ人(ヴォーカル含む)に必要な現代音楽の作成ツールであるDAWを知ること、使うことはとても大事です。バンドだけ…演奏だけ…ではなく、「創る楽しみ」も同時に学び、今後の時代の発展に合わせた作曲やサウンドデザインを心がけ、オリジナリティあふれる作品を創ってください。					
使用教科書	各講師オリジナルの教材の使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	セルフプロデュース		授業形態/必・選	講義	必修
	SNSセルフプロデュース I			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験13年 ESPミュージカルアカデミー ヴォーカルコース卒業後、配信リリースデビュー。 自身のアーティスト活動に加え、アイドルや声優などのコーラスやレッスンを行っている。 近年は発信の場をSNSやオンラインにも広げ、ライブ活動でTOPランクライターを達成、SNSイベントのアンバサダーも務める。					
授業概要						
自己実現と自己発信。自身が作成した楽曲ならびにアーティストとしての活動をどのように世間に発信していくのかを学ぶ。 自身の強みを理解し、セルフブランディングを行う。						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> 自分がどんなアーティストや作家、どんな人になりたいのか『目標』を決める→実現のためのプロセスの理解 自己発信の仕方やコツ(SNS運用、アナリティクス分析)を理解し、自身の作品や活動を発信できるようになる セルフブランディング(自分自身or楽曲の分析、アプローチ法)を学ぶ 						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	SNSで何が出来る？目標を立ててみよう ・SNSの基礎知識を理解する(各SNSの役割と特徴) ・自己実現のための目標設定をする、ルーティーンを決める ・自己分析(自分の特徴を知る、向き合う)					
【前期】 7～12回目	SNSを実際にやってみよう ・それぞれのSNS基礎知識(Instagram、TikTok、YouTube、X、ライブ配信等) ・それぞれのSNS特徴、コツなどを学ぶ ・ロールモデル、ペルソナ設定の仕方					
【前期】 13～17回目	プロデューサーになってみよう ・他者プロデュース(プロデューサー目線でさまざまなものをプロデュースしてみる) ・自分に置き換えてプランニングしてみる					
【前期】 18～21回目	SNSと自分の活動を繋げよう・SNSマーケティング基礎(発信、拡散、認知、ファン化の流れなどを学ぶ)・前期の振り返り					
【前期】 22回目	「前期試験」					
【後期】 23～28回目	SNSのさまざまな機能を使ってみよう ・SNS応用知識を理解する(アナリティクスの見方、フォロワーの層などの把握) ・ショートムービーの作り方を学ぶ ・ライブ配信の仕方、必要機材、マインドセットの仕方					
【後期】 29～34回目	ファンコミュニティを学ぼう ・推しとファン化について学ぶ(ファン化の仕方等) ・コミュニティの作り方や心得を学ぶ ・クラウドファンディングについて学ぶ					
【後期】 35～38回目	イベント企画をしてみよう ・ファンイベント(ライブイベント)を企画してみる ・よりコアなファンになってもらうための動線作りを学ぶ					
【後期】 39回目	「後期試験」					
【後期】 40回目	年間のまとめ～SNSを活用した自己実現～ ・SNSを使ったマネタイズ方を学び『お仕事』にする ・営業の仕方など自立した活動法を学ぶ					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	どんなに素晴らしい楽曲やアーティストでも発信しないと埋もれてしまいます。今現在のやりたいことや目標をきちんと理解し、卒業後も自立して活動できる人になりましょう！！					
使用教科書	担当教員の制作した資料					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	オリジナルパフォーマンス		授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカルテクニックⅡ			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験29年 音楽大学音楽教育学部卒業後、高校音楽科非常勤講師を経てダンスヴォーカルグループでの活動の他、アーティストのコーラスなどに参加。現在はアーティスト、ライバー、アイドル等のヴォイストレーニング、軽音部コーチなど後進の育成を手掛けている。					
授業概要						
一年次に習得したテクニックの復習と応用。歌詞やオケ(楽器)の演奏に対して必要な様々なテクニックを理解、習得し表現力を高め、伝える歌、感動を与える歌を創る。						
到達目標						
歌詞の世界観に相応しい表現を織り込み、「伝わる歌」を歌えることを目指し、技術の高い歌をどのタイプの曲でも歌えるようになることを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「自由曲の中でのアタック、アクセントの習得」の一年次の復習、修正 ・口の開きや動きの強弱と腹圧の関係 ・母音～子音～母音の流れに対する発音との関係 ・オケのリズムアプローチとの関係					
【前期】 5～8回目	「自由曲の中でのアップベンド、ダウンベンドの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なスケルトトレーニング ・フレーズを抽出、その中での実践 ・1コーラスでの実践					
【前期】 9～12回目	「自由曲の中でのヴィブラートの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの修練 ・ハミングでの歌唱 ・フレーズでの実践					
【前期】 13～16回目	「自由曲の中でのエッジ、ウイブアーヴォイスの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復 ・1フレーズを抽出、実践 ・1コーラスでの実践					
【前期】 17～21回目	「自由曲の中でのダイナミクス、クレッシェンドの習得」の一年次の復習、修正 ・共鳴の確認、副鼻腔・口腔・咽頭のバランスの確認 ・各共鳴腔の増減のコントロール ・フレーズ、1コーラスでの実践					
【前期】 22回目	前期試験					
【後期】 23～26回目	「自由曲の中でのファルセットの習得」の一年次の復習、修正 ・共鳴の副鼻腔・口腔内のバランスの確認 ・息の量の増減、そのコントロール ・ナチュラルヴォイス→ファルセット→ナチュラルヴォイスの切り替え					
【後期】 27～30回目	「自由曲の中でのプレスアビール、プレスカットの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復、腹式呼吸との関連性 ・1フレーズの抽出、反復 ・1コーラス内での実践					
【後期】 31～34回目	「自由曲の中でのヒーカップ、フォールの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復、ナチュラル→ファルセットの切り替え、音程の幅広い上げ下げ ・1フレーズ内での実践、テンポキープの確認 ・1コーラスでの実践、入れる場所を選ぶセンスのチェック					
【後期】 35～37回目	「総合①」学んだこと全ての確認、復習、修正					
【後期】 38回目	後期試験					
【後期】 39回目	「総合②」上の「総合①」学んだこと全ての確認、復習、修正の継続					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	一年次に習得したテクニックを更に確実にし、習得出来なかったものをそのままにしないこと。伝える歌には必要な“テクニック”があり、それが入れられていない歌は感動を与えることから遠ざかってしまうことに危機感を持ち、諦めないで何度も繰り返し練習しましょう。					
使用教科書	全コース共通の教科書を使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	SSWソングアナライズ		授業形態/必・選	講義		必修
	SSWソングアナライズ			年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位	
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、サウンドクリエイターコース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当	<input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験38年 様々なアーティストのライブツアーに参加、バンドデビュー。その傍らアレンジャー・キーボーディストとして活動。 また、ミュージカル・舞台劇・映画・TVドラマ等の音楽制作を担当。 キーボード教則本を出版する。近年はトレーナーとしても活動する。						
授業概要							
様々な曲のメロディーやコード進行等を音楽理論的な側面から分析・研究する。 それを踏まえリハーモナイズ(簡単なメロディーにコード付け)や、与えられたモチーフからメロディーを展開しコードを付ける練習課題に取り組む。 楽譜の読み書き(スコアリーディング・ライティング)のトレーニング。							
到達目標							
色々な曲から感じ取れる印象の背景にある音楽的手法を理解する事で自身の作曲のスキルの幅を広げる。 また授業で取り上げる曲だけでなく、各自が興味を持った曲を分析・研究する手法を習得し自身の作曲につなげる。							
授業計画・内容							
【前期】 1～5回目	アナライズの手法を学ぶ ・調性の判断と、ダイアトニックコード。曲のコードにディグレネームを書き込みコード進行を理解する。 ・和声音と非和声音。順次進行・跳躍進行。モチーフとその展開、また繰り返しのメロディーに違うコードを用いる方法など ・リハーモナイズ・簡単なメロディーに様々なコードで彩る可能性を探る						
【前期】 6～10回目	平行調・同主調 ・曲の中でその雰囲気に変化を与える平行調や同主調の使用例 ・セカンダリードミナントの使用例の研究 ・ノンダイアトニックコードを使用する際に、メロディーの音階も変化する(臨時記号が付く)例について						
【前期】 11～15回目	ディミニッシュやハーフディミニッシュについて ・前後のコードを経過的につなげるコードの使い方 ・ディミニッシュやハーフディミニッシュに入れ替え可能なコード、コード進行 ・リハーモナイズの課題でディミニッシュやハーフディミニッシュを使用する可能性を探る						
【前期】 16～19回目	曲の印象とメロディーやコードの使い方を具体的に考察する ・曲の中で印象的な部分についてメロディーの動きやコード進行、歌詞がどう伝わるかを具体的に分析する ・使用されているノンダイアトニックコードを判別し、その機能と曲に対する効果を考察する ・分析した内容を記述形式で表現し、曲に対する理解を深める						
【前期】 20回目	「前期試験」						
【後期】 21～25回目	クリシェなど ・クリシェとは何かを正しく理解し、メロディーの動きとの関係を研究する ・コードの停滞感を避けるための方法について ・リハーモナイズでクリシェを使用してみる						
【後期】 26～31回目	関係調 ・平行調や同主調の関係性を用いて転調している楽曲の研究 ・部分転調と転調、また元の調に戻る際の動きなどの研究 ・簡単なメロディーを用いて、転調の可能性について探る						
【後期】 32～37回目	転調と調号について ・ある程度の長さ(8小節～など)転調する際、楽譜上調号を変更する場合について ・サブドミナントキーやドミナントキーへの転調について ・調号が変わる場合の書き方の練習問題						
【後期】 38回目	「後期試験」						
【後期】 39～40回目	メロディーとコードの関係性 ・メロディーがコードのM7の音であったり、9thであったりする場合 ・メロディーが非和声音から和声音に動く形 ・与えられたモチーフの続きのメロディーを作りコードを付ける						
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)						
学生へのメッセージ	「創る」という事に集中すると、どうしてもワンパターンになってしまうなどの壁に当たってしまうのは誰にもある事です。様々な曲を作曲目線で分析する事で、音楽の要素を吸収して新しい曲を創るエネルギーにしましょう！！						
使用教科書	担当教員の制作した資料						

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	SSWアーティスト歌唱		授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカルクリエイトII			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ギターヴォーカルコース、シンガーソングライターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	1992年CDデビュー、1999年ボストンへ単身渡米、帰国後2004年ボイストレーナーとしても活動を開始。大手プロダクション所属アーティスト、声優、俳優らを数多く指導する。その他ラジオパーソナリティや楽曲提供も積極的に行っており、現在は音楽プロダクション(株)Mackie-i-Lands 代表取締役の顔も持つ。					
授業概要						
1年次に掴んだ自分のスタイルを更に極める為に、発声、テクニック、ステージングなど全ての面をスキルアップ。個々の声質、キャラクターを活かし、“この歌詞、メロディーを伝える為に、自分だったらどう歌うか”を追求する。						
到達目標						
ヴォーカリストに必要な“自分のスタイル”を一年次よりも確立させ、その特性を伸ばし、より確実なものに仕上げ「Only One」の歌を歌えるようになること、それをライブやオーディションに繋げることを目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～2回目	一年次にある程度絞込んだヴォーカルスタイルを学生に口頭で説明させ、実際に歌唱で確認。 声質、音域、現時点で身につけているもの、足りないものを提示及び解説し、残りの一年間で学ぶべき内容を正確に自覚させる。					
【前期】 3～6回目	発声面の良いところと一年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導(特に共鳴・腹式に関して) ※以下、各ポイントの指導期間の短縮及び曲数の増加は、各講師の判断で行うものとする					
【前期】 7～10回目	発声面、技術面の良いところと一年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主にバンド、ヴィブラート、エッジに関して)					
【前期】 11～14回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと一年次に習得出来なかった修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (主に顔の表情、手の動き、ポージングの設定と変化に関して)					
【前期】 15～19回目	フルコーラスの仕上げ、一年次との比較(歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて)					
【前期】 20回目	前期試験					
【後期】 21～24回目	二曲目を選ばせ、発声面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特に共鳴、腹式に関して+支え、滑舌)					
【後期】 25～28回目	発声面、技術面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導 (特にバンド、ヴィブラート、エッジ+プレスアピール、アクセントなど)					
【後期】 29～32回目	発声面、技術面、ステージング面の良いところと修正ポイントの提示と解説を含めた指導					
【後期】 33～37回目	フルコーラスの仕上げ、一年次との比較(歌詞の内容、オケのニュアンス、リズム等と関連付けて)					
【後期】 38回目	後期試験					
【後期】 39回目	総復習、アーティスト性の絞り込み					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	個性を残したまま自分が歌いたい曲を「歌える曲」にすること。歌えていない曲をただ歌いたいから歌う、ではない形に仕上げることは、ヴォーカリストとして評価を上げる為には大切です。「自分にしか歌えない、自分だから歌える歌」をてに入れましょう。					
使用教科書	全コース共通の教科書を使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習Ⅱ	授業形態 / 必・選	演習	必修
	アーティスト実地演習Ⅱ		年次	2年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(32単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。					

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目～7回目	コースイベント①②
8回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅡ(前期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
4～6回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
7～9回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～19回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択
	選択キーボードⅡ(後期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
4～6回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
7～9回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
10～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～19回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。